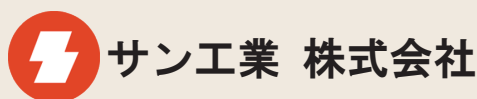


液晶画面を陰から支える フラットパネルディスプレイの保護板 国内生産量No.1

サン工業 株式会社

携帯電話、パソコンなどに使用されているFPD(フラットパネルディスプレイ)。サン工業はこのFPDの保護板を、優れた印刷技術と切削技術を駆使して製造しています。国内唯一の一貫生産体制を持ち、国内生産量でトップである同社。近年は材料開発にも積極的に取り組んでいます。今回は代表取締役社長の中川高彰氏にお話を伺いました。



サン工業 株式会社

代表取締役社長：中川 高彰 氏
所在地：兵庫県尼崎市大浜町2-49
設立：1969年（昭和44年）
従業員数：110名
事業内容：アクリル樹脂製品の印刷加工

― 誘導灯部品で国内シェア8割

当社は、1969年に台矢工業(株)として設立したのが始まりです。材料メーカーからアクリル板や塩ビ板を購入し、それに印刷・切削加工を行いお客様に供給しておりました。そして1980年に今の社名であるサン工業(株)に変更、現在に至ります。

私が創業家から経営を引継ぎ、代表取締役に就任したのは1994年でした。当時は、従業員数約30名、年商が3億円前後で、主要な製品は3つでした。1つ目はビルなどで必ず設置されている緑色の非常口の看板(誘導灯)です。当時の材質は塩化ビニルが一般的でしたが、半年ほどで黄色く変色するという欠点がありました。そこで当社は、建築基準を満たすアクリル板を材料メーカーに製作してもらい、そのアクリル板に日本で初めてUV印刷を行うことで欠点を克服した製品を開発、国内シェアの7~8割を占めていました。

2つ目は電子レンジ部品です。電子レンジ前面に使用されるポリカーボネイト板を製造しておりました。そして3つ目はワープロ部品です。液晶画面の保護板を製造していました。

― 一貫生産体制構築のきっかけ

代表取締役として経営基盤強化に試行錯誤していた折、曲げR加工したアクリル板で自動車電話の画面表示部

分を製造できないかと大手電装部品メーカーから引き合いがありました。

当時の技術では非常に難しい要望でしたが、印刷方法、加工手順を見直し、なんとか製品化に成功、ビジネスを始めることができました。しかし量産工程では不具合が多発、協力会社での工程も多く対策はなかなか進みませんでした。それを打開するために導き出したのが、今のサン工業の土台になっている、印刷から加工・検査までを一貫して行う生産体制の構築です。これにより、不具合の出た工程を社内ですぐ確認でき、迅速な対策が可能になりました。また一貫生産の導入をきっかけに、独自の素材貼合技術や新素材の開発にも取り組みはじめ、ビジネスチャンスも広がっていきました。

― 正月返上で掴んだ、 ビジネスチャンス

一貫体制を構築し始めた矢先、大手電機メーカーから携帯電話前面パネルの製作依頼が舞い込んできました。その製品は、従来インジェクション成形で製造されており、歩留りの悪さが問題となっていました。それを解決する手段としてアクリル板での製造が検討され、当社に引き合いがきたのです。

15年近く前の話ですがこのことは今でも鮮明に覚えており、このチャンスを何としてでも掴むため、正月休みを返



上し、12月30日から1月3日の5日間で試作品を作り上げたのは良い思い出です。完成した試作品は良い評価をいただき、すぐに採用されました。その後、この製品は他メーカーの携帯電話にも採用され、当時の国内携帯電話の6割に、当社のアクリル加工品が使われていました。



アクリル板を用いた
前面カバー

— 顧客ニーズに応えるための

材料開発

当社の製品は、携帯電話に続きデジタルカメラにも使用され順調に業績を伸ばしていましたが、同時に技術の移り変わりを見越して、新しいビジネス展開を模索していました。

そこで目をつけたのが、カーナビやオーバーヘッドディスプレイなどの自動車関連機器、家庭用ゲーム機などのアミューズメント関連機器、そして手術の際に使用するモニターなど医療関連機器へのビジネス展開です。現在は自動車分野の売上が最も多く、4割を占めています。

一貫生産体制の導入により、川上から川下まで全ての工程を内製化したことで始めた新材料の開発も実を結びはじめました。たとえば、当社が開発したSUPER-ARという素材は、従来の素材に比べ高い反射防止機能と防汚性、撥水撥油性等、多様な機能を持ち合わせ多くの自動車メーカーに採用されています。



車載ディスプレイ (カーナビ)



医療機器モニター 携帯型ゲーム機

加工メーカーであった当社がなぜ、材料開発にまで踏み出しているかといいますと、当社の社員は材料メーカーでの勤務経験をもつ者が多く、原料である樹脂について深い知見を持ち合わせているからだと考えています。日々新しい材料を入手、それを既存の材料と様々な条件下で組み合わせ、性

能や用途を意識した製品開発を行うことで、様々なニーズに対応できるよう努めています。

— 磨き続ける技術力と提案力

電動化や自動運転の実用化が進む自動車分野では、ディスプレイの大型化が進んでいます。当社にとってはチャンスと考え、積極的に提案を行っています。また、建材など非液晶用途の分野にも力を入れていきたいと考えています。当社では、樹脂に抗ウイルス・抗菌機能を持たせる技術を保有しており、建物の壁材やテーブル、食品関係、レジなどに活用できると考えています。樹脂に機能を持たせる“技術力”そして新しい用途を見つけ採用いただく“提案力”が当社の強みです。これからも磨き続けていきたいと思ひます。

また、社員が健康で働ける企業であり続けたいと思っています。「心の健康」と「体の健康」どちらも大切ですが、「心の健康」に関して言えば、仕事を通じて、ものづくりの楽しさを感じ、アイデアを出し合うことができる環境を整えることでサポートしていきたいと思ひます。ゆくゆくは従業員のアイデアを元にしたオリジナル商品を作ることが理想です。

— 貴重なお話をいただき、
誠にありがとうございました。